

令和2年度 第3回白馬高等学校学校運営協議会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和3年（2021年）2月17日（水）10時00分～11時30分
- 2 場 所 オンラインミーティング形式（ZOOM使用）
- 3 参加者 委員8名（欠席：武田彰代委員、岸清美委員）
この他、長野県教育委員会より3名
白馬・小谷両村関係者2名
白馬高等学校職員2名



4 次 第

- (1) 開会の言葉（関教頭）
- (2) 白馬高等学校長挨拶（臼井校長）
- (3) 報告事項

① 学校の現状報告（臼井校長）

- ・新生白馬高校の5年間の成果【資料p.19～20】を報告
- ・白馬高校経営方針【資料p.21】について報告、および次年度についての口頭説明

② 寮運営等に関する報告

- ・総合戦略【資料p.34～36】について説明（柴田支援局長補佐）
- ・次年度白馬高校支援事業案（予算案）【資料p.38】について説明（松澤支援係長）

(4) 質疑・応答

<白戸議長>

○今回は今年度最後の会となりますので、来年度の課題も含めて意見・質問をお出しください。

<伊藤委員>

○オンライン開催となったが、資料の事前配布があったのであらかじめ目が通せてよかった。支援係の総合戦略は視察研修の結果が反映されている。この作成は何人くらいでなされたのか？学校や住民との内容の共有が大切だ。具体的な事業を進めるにあたってプロジェクト毎にチームを作って、責任者を割り当て、何年かの継続が必要だと思う。

○アンケートで評価の低かったものをKPIの項目にあげるべきだと思う。

<柴田支援局長補佐>

○プロジェクトの責任者の件は今煮詰めているところ。特進コースの業務委託については、白馬村内の塾にも声をかけている。ファミリー制度については小谷村の山村留学で私もホストを引き受けた経験があり、その子が30～40代になっても繋がりがもてることは実証済み。

<伊藤委員>

○責任者を置くのは、一括して支援係がやるということか？

<柴田支援局長補佐>

○支援係だけでは難しい点がある。村民の力を借りる必要がある。

<伊藤委員>

○責任者を設ける際は手上げ方式にしてほしい。提案した人を中心に実施し、支援係は全部をやる必要はない。トップにいて、仕事を分散させ、責任を与える組織にすべきだと思う。

<柴田支援局長補佐>

○学校などみなさんの意見をもらって、手上げ方式などを含め検討したい。

<相沢委員>

○地元の生徒がたくさん入れるための魅力とは何か。ここには自然があり、環境問題も注目されている。英語とプログラミングがこれからの時代必要だということだが、企業の成功者の話などオンライン授業で聞かせたりして将来につなげて欲しい。大学を出るだけでなく高校卒業後すぐに関われるような内容も生徒に教えて欲しい。土、バイオなど小谷白馬の人が学びながら生徒に伝えられれば雇用も生む。食の問題など、他ではないような授業もやってほしい。

<下川委員>

○地域を巻き込んだSDGsのこれまでの取り組みやこれから環境サミットを白馬でやるという前向きな対応に感謝している。（資料p.20の）第10項目の「白馬高校の存続は、白馬村・小谷村に本当に必要か？」という記述について学校長から再度説明をしてほしい。

<臼井校長>

○白馬高校が県立なのになぜ両村にこれほどまで手厚く物心両面の支援をいただいているのかを、地域から学校が無くなるとどうということになるのかという開設の原点に立ち返って、学校

や役場のスタッフの入れ代わりも多い中で再確認しようというものです。

<下川委員>

○この地域から学校が無くなるということは過疎化に拍車をかけることになるのは今も同じ。

○支援係は島根県の視察を通じて、総合戦略で地方創生推進交付金を獲得するというヒントを得た。県教委はこうした交付金について何か情報をお持ちか？

<駒瀬高校再編推進室長>

○この情報については確認できていない。確認しようと思っている。

<下川委員>

○今後ともご指導をお願いしたい。

<駒瀬高校再編推進室長>

○ご相談させていただきながら、白馬高校のさらなる発展に努めたい。

<中村委員>

○小谷村村長としても第10の項目は、校長の前向きな発言だという点を確認しておきたい。

○インターハイの鎌倉さん、鈴木君、平田さんの活躍おめでとうございます。

○前期入試合格者の県内外の割合を教えてください。

<臼井校長>

○県外8名、県内他地区1名の9名だ。学校説明会の感触から皮算用ではもう少しいたのだが、コロナ禍で親元から手放すことを再考したご家庭もあったと思う。

<加藤委員>

○スキーのインターハイの結果は小谷中にも聞こえている。先輩の活躍は中学生にも「あこがれ」である。本校の卒業生が白馬高でどう考えを深め、進路選択をし、その新しい進路でどういう考えをもつようになったかを情報提供してほしい。

<平田委員>

○意見を言ったことにすぐに反応して取り組んでいただけてよかった。受験生の母だったとき、白馬高校では大学受験のカリキュラムが無いと言われ、大学受験に不安があり、大学進学には向いていないと思った。今では大学進学希望者も増え特進クラスもできるそうで、考えてくれていると感じた。白馬高で自分がどのように変わったかを、生徒の生の声として、例えば、しろま祭などで伝わる機会があればいいと思う。

<臼井校長>

○ありがとうございました。地元生の確保が大切だと考えている。最後になるがp.39以降に、白戸先生の『教育の広場ながの』への寄稿文を資料として添付しているのでご覧ください。

<白戸議長>

○寄稿文は今週の頭に出たもので、資料掲載分と若干異なるので、そちらと差し替える。

○前向きな発言がいっぱい出た。総合戦略に関しては、白馬高校に関わりたいがどういうふうに関わったらいいいのか分からなかった人がこう関わればいいと分かるといい計画になると思う。

○屋久島で、ある人から白馬高の高校生ホテルのことや白馬・小谷両村が元気なことについて、どうすればあんなことができるのかと聞かれた。学校や地域が前向きであることと、若い人がとどまっていられる場所があることがいいのだと思う。知恵を集め次年度も充実させたい。

(5) 県教委まとめと挨拶（駒瀬高校再編推進室長）

○平成28年発足から5年、皆さま方の力添えに感謝する。この間の成長をひしひしとを感じる。

県では「夢に挑戦する学び」を進めているが「地域との共働」がキーワードの一つ。白馬高はその先進的な取り組みをやってきた。成果も課題もあるが、課題はこの運営協議会をはじめ様々なところで話題にされ解決していくものだと思う。これからは学力だけではなく、高校生活で何を学び、何を身につけたかが評価される大学入試になっていくが、白馬高の取り組みはその点でも注目に値する。5年前の両村の熱い思いは今も胸に焼き付いている。

(6) 閉会の挨拶（関教頭）

○委員のみなさんの任期は令和4年4月30日までです。

○外部評価および、自己評価の妥当性と改善意見をご提出ください。

○次回は5月に予定しています。